して呉れんと鍬潟の部屋へ乗り込んで見ると鍬潟賢い。モウ先刻に出立して、今頃は箱根を越えて居るぢやろと云ふ。詮方なく一年延ばす事にして居るとガラリ年が替つて大阪の興行。待ち兼ねた雷電ドン〳〵乗り込んで來るなり、宿へも寄らずに遣つて來たのが福島。尋ね〳〵て鍬潟の家へ來て見ると、鍬潟夫婦は子供等と朝粥を食べて居る。ヤア鍬潟どん、オヽコレハ〳〵雷電關。穢苦しい處へ宜うおいで成されました。イヤ〳〵良うは來ぬ。今日は惡ふ來ましたのぢや。併し此の様に澤山子供が居ては話が仕悪い。どうぞ皆去んで貰ふて下され。イヤ去す譯には參りませぬ　是は皆私の子供で御座りますと云ふ。雷電が子供の顔を見ると皆鍬潟夫婦と瓜破らず其儘。オヽさう云ひなさりや皆お前さんによう似てゝぢや。全部で何人在んなさる。ハイ九人御座りましたが一人は疱瘡で取られ、又一人は熱瘡で死なしまして唯今は七人殘つて居ります。此處で雷電が感心して仕舞ふた、大概の角力取は女房を貰ふと力が落ちる、子供が出來たら土俵を退くと云ふ位ぢや。それに何んと九人も子供を産むだ上、憂い目悲しい目を見て、其上遙々江戸まで百三十里も下つて來て、譽へ身體に荏の油を塗つてゞも一番俺と取組んで見やうと云ふ、貴方の度胸に感心した、どうぞ今日から兄弟分に成つて下んせ。有難う厶りまする左様なればお前様が兄分に。エー何を云はんすぞい。私しや角力に敗けた故弟ぢやと、八尺に餘る雷電が、半分にも足らぬ鍬潟の弟分に成つたと云ふ話がある、そや依つてに、身體が小さいと云ふても、何も卑下する事はありやせん」

「ヘエ大きに。そない云ふて貰ふと心丈夫に成つて來ました。時にお宅へ角力取がチョコ〳〵出入してまんなア」

「フム。朝日山と鳥渡遠縁に當るので、アヽして角力取が遊びに來るのや」

「皆大きな身體してまんな」

「稽古が積むと、だん〳〵身體が大きなるのや」

「アヽ左様か、何うだす、一つ私いも角力取にして貰へまへんやろか」

「其氣があるのなら往て見なされ、今手紙を書いたげる」

甚平さんも氣樂な人で、こんな男を角力取にして呉れと云ふて遣つたら部屋の笑ひ草にでも成るやらうと、手紙を一本認めて

「サア、今日から稽古して呉れと書いてある依つて、朝日山の部屋へ持つて往といで」

稽古事も澤山御座りますが、角力の稽古程エライ物は厶りまへん、アーリヤよいしよッ。ドーンと頭突を持つて往く。エイよいしよッ。耳でも何でも用捨なしに張り倒すとゴロッと轉がる、それで大ていの角力取は耳が潰れて居ります　又起き上つてドーンとブツかつて行くのを、よいしよッゴロッ眞面に鼻を打つて鼻血がタラ〳〵と出るのを、ツーンと拭んどいてドーン。よいしよゴロッ。眼の球が飛び出すのをポン〳〵と砂を拂ふて眼の中へ放り込むなり。ヨイショ……そんな事はおまへんやろ